

# 川越ロータリークラブ 会報 No.8



2024年8月27日 第3491回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：101名 免除出席者：2名 正会員出席者：61名 出席者：63名 早退：1名 出席率：62.24%

## プログラム

点鐘 (12:30) / ロータリーソング (第3例会：それでこそロータリー・四つのテスト) / 卓話講師紹介 / 会長の時間 / 幹事報告 / 委員長報告 / ニコニコボックス / 出席報告 / 卓話 / 点鐘 (13:30)

## 会長の時間

### 2024-25 年度会長 西川孝博

川越ロータリークラブが委員として参加している川越市姉妹都市交流委員会と川越市少年の翼事業について。姉妹都市交流委員会が交流している海外の都市は、ドイツのオッフエンバッハ市、アメリカのセーレム市、フランスのオータン市の3都市です。オッフエンバッハ市との交流は、オッフエンバッハ市に本社がある医薬品メーカーの工場が川越にあった事から始まりました。当該会社の社長の仲介で1983年8月24日に川越市川合喜一市長とオッフエンバッハ市長との間で姉妹友好都市の提携がなされました。アメリカのセーレム市と川越市との姉妹友好都市提携は、1955年川越の東京国際大学とセーレム市ウィラメット大学との姉妹校提携がきっかけで、1985年にセーレム市市長が川越を訪問した際セーレム市長から申し出があり、1986年に姉妹友好都市提携がなされました。そして、コロナで一時中断していた交流訪問が、今年の8月に再開し、川越市内の中学生10名がセーレム市を訪問しております。今後の予定では、来年にドイツのオッフエンバッハ市に川越市内の中学生が訪問することになっています。3番目のフランスのオータン市との交流は、オータン市が異なる価値観や文化を持つ地域と交流しながら新しい



時代に対応した街づくりを模索している中で、埼玉県出身でオータン市名誉市民の方を通じた紹介で提携に至りました。2000年に友好交流が始まり2002年に姉妹友好都市提携が締結されました。

川越市少年の翼事業は、北海道中札内村との友好関係の構築により毎年8月に川越市内の中学生が中札内村を訪問し、アイヌの歴史文化学習、相原求一郎美術館の見学、現地の中学生との交流、牧場体験等のプログラムを行うという事業です。川越市と北海道中札内村との交流は、川越ロータリークラブの会員であり、川越市の名誉市民であられた相原会員の父君である相原求一郎会員が1996年に中札内村に相原求一郎美術館を開業したことに始まります。そして、2002年に姉妹友好都市提携を行い、以後川越市内中学生がコロナ禍の期間を除き毎年8月に中札内村を親善訪問しています。8月26日に開催された少年の翼報告会で、相原会員に川越市から感謝状が贈られました。

本川越駅前広場に姉妹友好都市モニュメントが設置してあります。お話しした海外3都市のほか、国内の姉妹友好都市として中札内村、小浜市、棚倉町の3都市の記載があります。注目していただきたいのは、看板の支柱部分に「贈川越ロータリークラブ」と書かれていることです。クラブの社会貢献事業として川越市に寄贈されました。初めて聞いたという員は、本日の例会の後にでもお立ち寄りください。

## 幹事報告

### 2024-25 年度幹事 齊藤 智

配布物：会報、卓話資料

ご案内：地区ポリオデーご案内

詳細は事務局へ 東松山スリーデーマーチ 11/2, 3, 4



・地区 R 財団補助金 1080 ドルが承認された。

## 委員長報告

鈴木（崇）委員

・親睦委員会 8 月のお祝い

会員誕生

原敏成

今泉博

石井成人

和田尚也

齋藤 充

山口 裕

五十嵐昭洋

沢田通

近藤武弘

鈴木崇生

高木寛和

会員配偶者誕生

片山幸雄・貴恵

山田禎久・英理子

野溝守・将子

高山大輔・三代子

小林徹・綾子

結婚記念

中田庸司



・職業社会奉仕委員会（山田（哲）委員長）

昨日、第 3 回川越市スナッグゴルフ大会が開催されました。小学生が 49 名参加し年々大きな大会になっています。川越ロータリーは第 1 回から参加しており今回は 9 名の会員にご協力いただきました。今後とも宜しくお願い致します。

・次週卓話のご案内（菊池広報委員長）

「ロータリーの友を読んでいますか」との内容で講師をお迎えしお話いただきます。

## ニコニコボックス

和田（尚）委員長

●本日の例会担当は、ラーニング委員会です。片山委員長宜しくお願い致します。＜会長、幹事＞●ラーニング委員長片山幸雄様、本日の卓話宜しくお願い致します。＜住谷、近藤、神谷、山田（哲）、小杉、小橋、戸口、相原、伊藤、西澤、和田（尚）、高橋（哲）、小高、佐藤（道）、中野（文）、小川、和田（喜）、坂口、野溝、島村、吉澤、馬場（常）、石井、塩野、鈴木（健）、栗原、鬼頭、廣瀬、柏倉、金剛、久保田、山崎、堀越、今泉（博）＞●本日の卓話はラーニング委員会の担当です。かねてより温めておりました。演題をお話しします。乞うご期待＜片山＞●昨日は大勢の会員の皆様の参加により、子供たちの笑い声が素敵でした。皆さんありがとうございました。＜藤井＞●先日、野村證券川越支店長「鬼頭会員」から相場展望レポートが送られてきました。このニコニコの寄付をもって株が上がる様「ご祈祷」させて頂きます。＜鈴木（健）＞●早退 1 名（敬称略）  
合計 45, 000 円 【8 月 20 日ニコニコ分】

●中野会員、高原会員のスピーチ、当日欠席しますので申し訳ありません。＜西澤＞

## 卓話（片山幸雄ラーニング委員長）

2010 年に研修リーダー制がスタートし、2021 年より研修委員会、本年度はラーニング委員会となりました。

演題「ポール・ハリスにおける奉仕理念の形成」

皆さんご承知のとおりロータリークラブは、1905 年アメリカのシカゴで生まれました。その間

ロータリーは順調に成長してきたわけではありません。ロータリー内部での価値観の相克や理念の対立が深まり、これまで幾度かの存続の危機、分裂の危機に見舞われ、その度に苦渋を嘗めて参りました。ロータリー存続の危機をこれまで 3 度あったとする人もいますが、私が認識しているのは 2 度であります。なんとか危機を克服してロータリーを存続させてきたのです。ただしそれは創立から 20 年の間にロータリーのおおよその体制が形成されたものと私は考えております。逆に創立から 20 年以降現在に至る約 100 年に及ぶ長い期間、ロータリーには大きな変化はなく特筆すべき事項もなかったと考えて差し支えないと思います。従ってロータリーを理解するためには創立から 20 年までを学ぶことが肝要であります。ロータリーをより深く理解するためには、創立した 1905 年から時代を逆上って学ぶ必要があると私は考えています。ロータリーが誕生する遙か以前の様々な歴史上の出来事が影響を及ぼして、ロータリーの発祥やその後の形成を促したものと思ひますし、ひいては現在の私たちのロータリー活動を大いに規定しているのではないかと考えております。

創立者ポール・ハリスについて彼の自叙伝『ロータリーへの私の道』を参考文献に考えますと彼の幼年期の体験が、ロータリーの発祥やその後の形成に大きな影響を及ぼしています。ポール・ハリスの奉仕理念はドイツの社会学者マックス・ウェイバーが指摘したプロテスタンティズムの理念に根差した奉仕理念であると私は考えています。本日は「ポール・ハリスにおける奉仕理念の形成」についてお話させていただきました。皆様ご清聴ありがとうございました。

